

子どもの転落事故に注意!

消費者庁が実施した調査では、乳幼児の育児経験がある消費者の約4割が子育て中に転落事故の経験があり、その約3割が医療機関を受診した経験があると回答しています。重大な事故を防ぐためには、子どもの転落事故の特徴を知り、事前の対策を取ることが大切です。

●遊具からの転落

- ・3〜8歳を中心に幅広い年代で発生
- ・受傷部位は腕や頭が多い

●ポイント

- ・遊具などの対象年齢を守る
- ・6歳以下の幼児には保護者が付き添う
- ・子どもの服装や持ち物に注意する(引っ掛かるおそれ)
- ・天候にも気をつける(高温、雨による滑りなど)

■家具などからの転落

- ・0歳を中心に低年齢の子でも発生
- ・受傷部位は頭が多い
- ・保護者が目を離した際に転

落する事故が目立つ

●ポイント

- ・ベビーベッドに寝かせ、転落防止用の柵は常に上げる
- ・転落の二次的な事故を防ぐために、けがや窒息につながる物を周囲に置かない
- ・テーブルなど、高さのある所に寝かせない

■抱っこ・おんぶからの転落

- ・0歳で多く発生
- ・受傷部位は頭がほとんど
- ・抱っこひも使用中も発生

●ポイント

- ・おんぶや抱っこをする時、降ろす時は低い姿勢で行う
- ・抱っこひもで前かがみは、必ず子どもを支える
- ・抱っこひものバックル類の留め具やベルトの緩みを確認する

■階段などからの転落

- ・ハイハイから歩き始める1歳前後に多く発生
- ・頭を中心に受傷。全身を打撲する場合もある

●ポイント

- ・ベビーゲートを正しく取り付け、常に閉めてロックをかける
- ・設置したベビーゲートは定期的に確認する

■窓・ベランダからの転落

- ・3〜8歳を中心に幅広い年代で発生
- ・頭を中心に広範囲を受傷

●ポイント

- ・子どもが勝手に窓を開けたら、ベランダに出たりしないよう、窓には子どもの手の届かない位置に補助錠を付ける
- ・窓やベランダの手すり付近に足場になるようなものを置かない
- ・窓やベランダの手すりなどに劣化がないか点検する
- ・小さな子どもだけを家に残して外出しない
- ・ベランダなどでは小さな子どもだけで遊ばせない
- ・窓枠や出窓に座って遊んだり寄りかかったりさせない
- ・子ども向けの製品を入手する際は、安全に配慮された製品を選び、中古品は製品の状態をよく確認しましょう。

▽問い合わせ先 消費生活センター (☎内線134) ※消費者庁News Release(令和4年7月20日)より



タイガーが伝えたい! アメリカ人の視点
アメリカでこたつ?
~疑問から掘り下げる文化の違い~

今年の冬は、こたつの中で過ごすと思いを固めているタイガーです。こたつは、私たちアメリカ人にとって非常に珍しいものですが、なぜ類似品がアメリカで普及しないのでしょうか。私は、アメリカ人が床に長時間座る習慣が少ないからではないかと思っています。日本では畳や座禅などで「床に座る」習慣があると思いますが、アメリカでは「土足文化」が主流です。とはいえ、アメリカでは家全体を暖める「セントラルヒーティング」が主流なため、あえてこたつが必要ないだけなのかもしれません。ということで、皆さま、今年は大変お世話になりました。よいお年をお迎えください。

祝 100歳おめでとうございます
いつまでもお元気で
~11月に100歳の誕生日を迎えた人を紹介します~

■長根富美子さん
(大正11年11月3日生まれ/三陸町吉浜)

長生きの秘訣は「色々な人に良くして貰っている事かな」とにこやかに話してくださった長根さん。お孫さんのお顔を見るのが何よりの楽しみです。

※記事の掲載について了承を得た人を紹介しています。

くま 健康講座

インフルエンザと新型コロナウイルスの同時流行に気を付けましょう

今年の冬は、インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の同時流行が懸念されています。十分な感染対策を取り、流行に備えましょう。

■インフルエンザと新型コロナウイルス感染症

どちらも、感染者の咳やくしゃみなどで空気中に放出されたウイルスを吸うことや、感染者が触ったものに触れることで感染します。詳細は下表をご覧ください。

- 感染を防ぐためのポイント
- ・適切なマスクの着脱
- ・手洗い、手指消毒
- ・換気
- ・密を防ぐ

■ワクチンを接種しましょう

感染が拡大する前から、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症ともに早めに予防接種を受けましょう。

- 日ごろから備えましょう
- ・解熱鎮痛薬
- ・新型コロナウイルス抗原定性検査

	新型コロナウイルス感染症	インフルエンザ
感染経路	飛沫、接触、飛沫核(空気)	飛沫、接触、飛沫核(空気)
潜伏期間	2~14日(平均5日)	1~4日(平均2日)
症状	発熱、咳、のどの痛み、倦怠感、頭痛、息切れ、嗅覚障害、味覚障害など	発熱、咳、のどの痛み、倦怠感、頭痛、鼻水、関節痛、下痢(子どもに多い)など

▽問い合わせ先 健康推進課(☎①581)

もしも、発熱など新型コロナウイルス感染症の疑われる症状が出たら

重症化リスクの高い人

※重症化リスクの高い人は、次の項目や疾患に該当する人です。
●65歳以上、●喫煙歴がある、●妊娠中、●肥満(BMI30以上)、●基礎疾患(高血圧症、糖尿病、脂質異常症、慢性腎臓病、慢性呼吸器疾患など)がある

かかりつけ医に電話で相談し、受診しましょう。かかりつけ医がない場合や受診すべき医療機関が分からない場合、いわて健康フォローアップセンターまたは診療・検査医療機関に相談しましょう。

▽いわて健康フォローアップセンター(☎0570-089-005/☎050-3730-7658/24時間受付)

重症化リスクの低い人

症状が重く、受診を希望する場合は、かかりつけ医や上記の「いわて健康フォローアップセンター」または診療・検査医療機関に相談しましょう。なお、症状が軽い場合は次の方法も可

- 能です。
- 1 いわて検査キット送付センターに申し込むか、またはインターネットや薬局などで購入した抗原定性検査キットで新型コロナウイルス感染症の自己検査をする。
 - 2 検査で陽性となった場合、いわて陽性者登録センターに登録申請する。
 - 3 症状の悪化が見られなければ、解熱鎮痛薬などの市販薬を服用する。



引き続き基本的な感染対策を徹底しましょう

年末年始は、人の往来が活発になり、接触機会の増加に伴う感染リスクの高い時期になります。引き続き、場面に応じたマスク着用、こまめな換気など、基本的な感染対策を徹底しましょう。

▽問い合わせ先=健康推進課(☎内線①581)

▷問い合わせ=市役所☎0192②3111